

1、世界の印刷メディアの動向

国際印刷大学校 木下 堯博

5E (Energy, Environment, Economy, Education, E-World) 社会はすべての分野に共通するキーワードである。世界が高齢化社会に進む中で、印刷産業の方向は、アメリカでの PRINT05 及び PIA/GATF のアンケート調査と同社の社長の講演内容などを参考にすると、印刷と GDP 及び人口のファクターの関連性が一層明確になった。著者はすでに各国の印刷産業と GDP や人口との関連に関し、調査研究を進め学会などで報告しているが、人口の多い中国やインドが例外的取り扱いであった。しかし、今や BRICS 諸国が成長著しい状況で例外的適用は出来なくなってきた。print05 でもアジア地区の国際会議が開かれ会場は盛況であった。アジア開発銀行が 2005 年 12 月 19 日発表した東アジアの 2006 年の成長予測は中国が 8.9%、韓国 5%、ベトナム 7.6%、シンガポール 6% などと中国向け輸出で、中国の成長に依存し成長を続けている。(1) 今後は高齢者社会と印刷産業のテーマが緊急課題でもあろう。

PIA/GATF の技術ベンチマークの調査では、プリプレス部門の保有 (%) では CTP70.7%(1.75)、PDFWF70.2% (1.42)、デジタル校正 67.3%(1.23)の順位となり、プレス部門は多色両面印刷機 35.6% (1.69)、FM Screen28.8% (0.88)、ローラ保守 16.1% (1.28)の順位となった。()内は満足度を示し、2点が高地点。4色オフ機用の紙の予備率は 1999 年から 2004 年までの時系列変化で平均 7500 枚のロットでリーダー企業の場合、5.1%から 2.7%へ減少している。4色オフセット印刷の準備時間は印刷枚数 2 万枚以上の場合、全体平均で 120 分となったが、リーダー企業で 45 分と短くなり、生産性向上になんらかの工夫がなされている。

このように生産効率も改善されてきているが、印刷企業数が年々減少し、生産性の低い企業は合併、廃業などがみられる。中国からの印刷物の輸入、更には、印刷企業の海外への進出などでアメリカ国内印刷産業は今後のどのように展開していくか? PIA/GATF の指導力が注目される中での Makin 氏の訪日であったが、印刷産業の出荷額が 2005 年上半年で GDP の前年比を超え 3.7%と拡大していることが明らかになり、新たな印刷産業構造による収益性の改善もみられる。International Conference on the ICT Industrial Clusters in East Asia の国際会議(2)が 12 月 12~14 日にあり、インドバンガロール、台湾新竹、韓国ソウルを中心とした IT 産業のクラスター構築により、製造業は郊外及び外国へのシフトが進んでいる。このように進展著しい東アジアに特化し、アジア開発銀行が発表した東アジア地区の経済成長の予測は GDP 前年比 0.6point 高い 7.2%であった。全印工連の調査でも印刷産業の純利益は年々減少傾向にあり、大胆な改革が必要である。これらから今後の印刷産業に必要な項目は IT スキルの振興、ソリューション型印刷経営、クライアントへの情報提供、共創ネットワークの確立などを目標とすべきであろう。また、印刷界の一層の発展のためには世界の 5E 動向に準拠し、CSR への取り組み、地域団体との連携し、印刷のデジタル化を推進していくことが必要である。

参考文献

(1) Asian Development Bank; Asian Economic Report Dec. 19 2005

(2) International Conference on the ICT Industrial Clusters in East Asia, at Kitakyusyu

International Conference Center, Japan Dec.12~14, 2005

連絡先 URL; <http://www.media-line.or.jp/igu> E-mail; kinoaki@mpd.biglobe.ne.jp